[illegible]

師匠梅室の八旬の賀を[illegible]て

春を旬八十為うけて梅の園　蕉山

雲の泡の浮世うまれ酒　遊流

[illegible]

下略

[illegible]八十の幾旬を梅の新の紅白[illegible]て

[illegible]

一帆の[illegible]

四方の風[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠路の年賀給ふ時

[illegible]

[illegible]

仁和のみかどの御製[illegible]き[illegible]の[illegible]

みちのくにうけて

弘化戊申春

梅花正風園第八

[illegible]

自賀

八十[illegible]の夢[illegible]の春

梅宮

梅は新[illegible]

[illegible]

亀洲

[illegible]なくいの流[illegible]

遥流

人[illegible]自主鍵つる

色洲

絲[illegible]の出[illegible]月の江

流芝

[illegible]くちのくに[illegible]

怪子

板戸のたゝみ炎こむ秋くれて　速ミ

うちまゝにてゝふるくゝ入る新　双

新立の家のさゝやき風もあし　西馬

ゆるまゝにたゝ滝落ちかゝり　百丈

荷ものうみ帰四五紋あるに行常　鬼ア仏

ちゝに鐘ぬ　ちのゝ　叫ぶる　立字

風神水換りまゝ昇つき　渓山

人ゝこのゝまる　数蓑の赤　白柱

古ゝゝ茶鐘ぬ者ゝ四季故　大鵬

炎水若ゝまゝ　人ゝ師板ゝ　蕃陽

きゝぬ池水風ゝ　風ゝ　為山

蛭火ぬ吹ゝ第ゝ目炎ゝ　年代

まゝ流くゝまゝ　回ゝ　水壺

飲ゝまゝ　ゝ色ゝ出ゝ酒　柄笠

ゆゝ費ゝゝ世ゝ　ゝ者ゝ　ゝ外

橋名ぬ沖師の第人ゝ者　組口

素直殷さうれたる無もれたるの　五石
庫たく毎に橋の縄張　万古
寒札へうつりの如く新緑　交水
附木きんてなる新鶯　秋香
浄瑠璃のうくやめてうろえる　古手
紋ふりの吉見　國くせ　洞受
四阿は月の尾花　源氏見き　清茶
清水は生て　時鳥来なく　叶月

茅葺の吉色し秋たきゆうて　見外
今の本辺は西と清見ある　寺月
手は際の横うてを　菊名　風村
罠ちくの蒙り　鶯の雪汁　羅紗
交互に寅みの睦月の色むしろ　一具
海山うけて　時雨うるか　寄吟

賀筵

兼題

梅

数さらす梅ばかりこそ咲ぬ　一具

雪ふるは　ふるとも咲き　梅ぶ　松亘

梅こそ風ばかり　梅見る　姐

梅ゝ春中旬をはし　なるべ　姫のお　好東

ちらあれの枝をとゝ　うめ　夫馬

梅さゝやかさ　茅　明ら　里ば家　尾村

宵　夏　門　ゆゝ　きを　空のう　色

春　那ふ　梅中　空の　里　半月

祖　ゝ

梅の一時用水汲渓流笠
の月梅の新さ四囲の氣深き
廣庭中只うくさうの色と魯心
梅の香を尚川と繞る小白うな子竹
叢うる心根の身や梅の新彼志
梅さしてせんいそうの新不知堂
水ゆ也中うの新き梅ちる万千
川風の香をさうの梅其則

梅の新の引きつ空やあさの面さう梅
日の面て見むく家や梅の色浄寛
中くて巴也さ巴の梅与寛
谷乃中梅うり叢の風与外
あらみ書い梅うて梅の色歸一
ものさて茅さうや氣の梅古山
地と空のさゆる百まう色の色西与
妻さうとちくふ山絵も梅の色芝湖

梅の実四五日ばかり湯にひたしてあく抜きをして月夜にさらすべしうめの毛宗一
一しきりふくやぶれし梅の葉秋香
霧つゆ梅のうるおひ青梅南柯
降雪を雪のうけてうるおひ毛泥華
打ぶとうるやうに咲梅ふ吉為
手刎する弟紛さきや梅の毛雅学
梅ありと常を見たるは中梅川

梅の香や風ふき雪のひとかたに樣宇
うぐひすに一ト門やく曲りうち知足
見ぬもなくて多よし梅の宿如見
塩漬や梅を見出のひとつ家梅月
二三軒うぐひすこゑ遠あり戸口ふ波郎
咲てもいまぬうちや咲の梅結之
紅梅や八方てらす毛の乾長樹
香をちらしうぐひすや八百屋ふ梅氷壺

月雪のかをかすめまんうえの色　見外
梅とうぐいすとをまつせめうつし　茶山
うめ香の別千歳　屋のきたん花　尾山
川流やまさ白梅の陰かくれ　雪所
疎ら木も疎らもさき梅の色　谷狗
出口うち黄の塀やうえの長　清鯉
枝ちらす嵐の内　てらすみうえ　柏樹
白梅の地をおろろ新ろけ　雪川

梅をうつす池をゆうつく小紅花　秋江　不識
立過てまちうつ陰ふむ堅梅ぶ　五石
中庭やまうつきこの梅は花　叩月
梅は花波のゆきて月雪さえ　由之
約先て疎見きうゆのゆ和花　一梅
霜なのう梅も尺旬やうり沈　味舎
枝枯をまさ新ふたきて梅の色　南枝
雪と新といつきをめてん月は梅　清芝

立華人柳を いけんはとう発　卓郎
梅の里をうるはるゝ道　あふち
柳の里をみるに　鼓うつ雪は梅　仙発
春をうめや梅ちる里の夕くれ　若山
そや梅を柳ぬこうとんと咲めてち　土毛
手近く柳見の なきぬ梅ぶ　梅霞
梅の月野山をなを見ぶ　三星
里歩行ことしもうぐんの世並れ　空堂

時人ゆきくいく春をうめ　李宇
人来里をうめ東をなく咲うの発ぶ　や翠
春を遠う家は春ふや梅は花　屋和め
枝村の春ゆをたゝ　梅の花　雪年
貶うあうをうつの春うの庭の梅　素湖
春をうをけるうをうめは発　上サ　乗湖
ゆくをと春のひのやこの里　梅　今ゝ
春春人ゝ春発ゆをうの発ぶ　涯ゝ

生るよ里を菊うう免れ　万古
宮ゝ風呂もゝ免るゝやゆ梅ゝ月　大船
梅れ木の陣ゝ来て鳴ゝ免　ゝ吟
ふゝを出て泊ゝるゝやらめれ　武蔵（作物）
ゝゝ水ゝ門田を前ゝう免のゝ船　涛眠
ゝれ梅白ゝとゝゝうう里けど　万里
宮ゝる水をゝんゝ梅白ゝ　交水（下サ）
梅ゝ香れゝ里ゝ左ゝかゝゝん、　旅羽

野をゝゝゝゝる里つう免の色、　ゝれめ
住ゝる里れゝるれゝう免吟、　徳山
梅ゝれゝ建ゝ門ゝう一ゝの主、　成面
梅ゝ衣のゝゝ身ゝ屋ゝ船、　白毛
ゝんゝ竹れ衣ゝゝゝゝ色、　大乃
ゝけ里ゝ咲ゝ住ゝゝう免の色、　春雄
月れ梅衣れゝのゝゝゝ乃ゝゝ、　玉高
暇やゝ旅のゝゝゝ梅の色、　仁里

梅深に入れる和歌の浦一本、蓮白
白う咲のふさうの身ふるふ、山茶
梅ちる和歌さく咲の分れ浦さ、芝生
くさ明て仁坂やう咲ふふ桃雨
ふくる出たる春ふふ尾れ、文亘
ちちふ明あけ色あふ和義のう咲、坊晩
白梅やあけふ社自ふ宮あふう、竹山
年挑てちふ日和や梅さう、後風

紅梅春て春ちやしふ和梅の色、星高
あきふのふ春社ふやう咲社花、花越
梅宮一坊ふる社春て咽尚色、東代
う咲う春やちふ風のふふし、南宮
畑中やふふう梅社あふ一ふ、吳山
春ふふう月ふふくして梅白し、春月
老春ふふふう咲ふふう梅の花（エサ）岩洲
ひふふまふ咲て春あふ梅社色 完

紫竹の枝あらしやう見れば　鬼の仏
夕日へこうろ芝居の梅見ぶり　古手
詩嚊てうきく墨ふりや梅ばえ　百丈
梅ぶせて人あきれのひとりぶり　嚊ゝ
たうきき枝ばうろや梅ばえ　双
嚊売のみみうち付ふうあの色　青柳
小産数や梅ばえ　書屋　岸友

蝙蝠のうみよ梨ろや汗のうち見　一立字
池よ水ちうそうきや梅ばえ　梅笠
水鉤ふ人ばえのうあの弁　弄化
見ばえの曙ふ　梅ばえ　蕎陽
梅ちゝやり先ばく社人通り　白桂
ちうちなる梅ばえ　梅ばえ　淡雨
海ばえ　梅ばえ　逢流
ちうれと寄ちうちうばえ　落山

紅色を新梅樹し　うゑの色　湖文

梅を見ながら　縁さと　湖鯉

うゑ時は二月　のの新芽　芝湖

花ゝ咲ゝ梅を面白し　長湖

日濃しと幸に見る梅窓　京　梅窓

雪はれの艸はちゝ麥手、　杜鵑

見るる郷はうゝ梅ひまり、　九起

水きりの人ゝ　やをむと水ゝ生、　淡言

行原の梅ゝ　まと一雨、　東童

雪の中ゝ　ちひさきうゝ　芋義、　芹舎

活潑の力　義の雪　花ゝ　梅通

日は義ゝ　梅風　ゝみ小、　有言

唐崎は松も人らしく子ぬ日かれ　伊勢　左乙
来て来きり椽して萌さゝ蕨　三河　冬岐
宵月は高けくあゆるし銚子　近江　砺山
畑打の声まてゆるや宵は山　雲水　月坡
羽子板やこれ見よかしにけりまて　ハリマ　谷山
菜は花や都をちかき河蘆葉　伊勢　榮笠
畑打やうしろは山に前は海、　鶯居
入来るや船の帆風の右方より　雲水　一の大

黄昏や椛蘇壺に鳴一羽、　乙遊
星かしまけ蘇の今かな　オク　一止
鶴は第かなる清たききくれ、　清民
されなくて鶯来り江のくまり　出羽　河風
雪もとの消し桜を見はど　カヽ　松壺
真清水満や椽く若立てかける、　然年
朝日や新温泉に通ふ起急き　越後　菜山
今朝の菜やくらい面し水は母と　常陸　よし彦

春日やうたん[illegible]山月うかぶ　暁葉

ゆくすえ[illegible]ゆくすえや春のあまり　下毛　蕉雨

雑社竹のあまりてきぬ緑の上　越河　遠山

橋色[illegible]人[illegible]　甲斐　欽英

きゆ稼[illegible]口見[illegible]の面　江戸　蹇丸

[illegible]　汐[illegible]中島の雑子　松像

[illegible]の後[illegible]　丁知

女[illegible]田[illegible]　伯恵

[illegible]月の外や[illegible]の色　荷少

陽芳や[illegible]のころ社杉葉うき　山外

[illegible]杉の色　由楚

なりきりや[illegible]杉　為山

[illegible]　淵秋

[illegible]　淵蛙

いつ[illegible]の[illegible]　泉淵

みどりの衣や時うつり色うすれ新芽　柳宝

血はうつる魚料理うまくうるもの　大坂　白雄

心動くまを知るまちまち、素盛

山あいの赤うつり紅葉　紅葉

うつむくかまくらかまくら　日向　双島

菜の芽を摘まで一度の菜屋　防州　風楽

赤んぼうして牡丹ちるー軒の宿　土佐　古風

手をのべいやしくさうり花咲く　紀州　紀枝

源氏の部の意象の表うへ　李　八ツ　而石

物言ひ嵯峨の人、虚喉

嵯峨の尼ちてきてうん水、蓮坊

ふき破る蓮の白ちり　月庵

月花を尺寸の書ー個、

月花を尺寸の書を尺寸の書を　呼牛

叶く作つてたゞ一尾の蛾　常陸　一北

四季をすゝ紙や書あるし　ムサシ　五渡

うゑつゝきゝすてゝ一さとの　江戸　桟芳

水ぬるきゝきひらく蓮ふ　湖鯉

和紙や掛へまゝ洗こゆる　柘榴

夕涼や紙の風ふれ　亀湖

席杖は藪あるらゆき紙風　柳宝

青ゝまつて新のけうけるせう船　京　岱手

雲ゝてゝこゝ蓮おまて秋の月　大坂　林番

鉄鉢の書る浦ゝきゝふ、蝦夷

琴ゝこゝの中ゝ玉ゝ川、影さ

徳蓮ゝ五位屋　蓮や蔦の秋　イヨ　映門

家に夜の寒しくなりあるまゝに　相一（イセ）

とおもふ詩をよみつゝ居し　素丸（素丸）

名月やとり落さうなる露　角夕（角夕）

湯ゝりの音　和都（戒石）乙良

新酒やあふらうの毛ぬけ　大夢（カハ）

岩鼻や海の日さす下紅葉　松什

きみまつと立ぬ命なりけるを　素翁

庶の名や屋ゝ名ゝ連歌　亀岡

金行や竹垣ゝ　梅宝

凡夫ゝ人ゝの寒ゝ和雪の人　伊丹　海面　阜

枯ゝ中枯ゝ孝の子　八千　宇石

枯ゝ中ゝ孔ゝ病ゝ　仙兄（イ十八）

五月十四日 池の水 紀伊 岡部
人世や五月雨のをとしの市 イセ 蕉笠
海まで見くだす水柱 ハリ 芭山
船頭のたけまあるる小春哉 庵太
月明て牛の鈴吉雪明る 二行 水竹
初冬や菜つくる畑の石ゆ 完伍
くつて空や一里先なる大根畑 雲小 玄子
きつしや山きれ時杉の風 オク 采月

山寺の山あれしらあるる哉 我中 出雲
秋立てひとりあまる梢大れ 我後 喜宝
筆は出るも化カや活る古し 甲斐 う狸
磯山や雲ちる杉ゝのれ吉き、 雪庵
祝ちれ紙衣や一日床のうへ 為山
ひとり言ゝ吹て中雪の門 義岡
海山小おのれ雪ちるこゝろ 岡史

琴琴と流れてはくや杉の響　龜洲

吉野の元のうのはなも
御宮の八十の遠長越し
うたうまうまひとり
あやしうしんとうす

我うつり千代の
影さへ小杉の那　龜洲